

モデルプログラム F-2 言語と認知の発達－事例の分析－

ねらい	母語獲得と第二言語習得の関係、言語面と認知面の発達の関係についての理解を深め、来日年齢や滞日期間、学習歴を考慮して、子どもたちの言語・認知発達の状態を把握して指導・支援に活かす。
対象	<input type="checkbox"/> 教師を目指す学生(教員養成課程他) <input type="checkbox"/> 日本語教育を学ぶ学生 <input checked="" type="checkbox"/> 現職日本語指導担当教員 <input type="checkbox"/> 現職一般教員 <input type="checkbox"/> 管理職 <input checked="" type="checkbox"/> 指導主事 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語支援員/母語支援員
日本語指導・外国人児童生徒等教育の経験	<input type="checkbox"/> 経験なし <input type="checkbox"/> 1年目 <input checked="" type="checkbox"/> 2-4年 <input checked="" type="checkbox"/> 5-9年 <input checked="" type="checkbox"/> 10年以上
高めたい資質・能力	<input checked="" type="checkbox"/> 捉える力(子どもの実態把握) <input type="checkbox"/> 捉える力(社会的背景の理解) <input type="checkbox"/> 育む力(日本語・教科の力の育成) <input type="checkbox"/> 育む力(異文化間能力の涵養) <input type="checkbox"/> つなぐ力(学校作り) <input type="checkbox"/> つなぐ力(地域作り) <input checked="" type="checkbox"/> 変える/変わる力(多文化共生社会の実現) <input type="checkbox"/> 変える/変わる力(教師としての成長)
主な内容	F 言語と認知の発達 E 母語・母文化・アイデンティティ
活動形態	<input type="checkbox"/> 講義型 <input checked="" type="checkbox"/> 活動型 <input type="checkbox"/> フィールド型 <input type="checkbox"/> 実習
時間	90分
流れ(・項目)	活動(◇活動の工夫)
1. 母語獲得と第二言語の習得の違いについて話し合う。(15分) ・母語と第二言語(E) ・子どもの言語発達(F) ・第2言語習得のプロセス(F)	1. 自分たちの外国語学習の経験と子どもが母語を身に付ける様子を思い出し、母語獲得と第二言語習得の違いについて話し合う。 1) 子どもと大人では、どちらが、言語習得が得意か。 音声、語彙、文法については?/会話(話す・聞く)、読解、作文では? 2) 子どもと大人の言語の学び方にどんな違いがあるか。 生得的な力で?認知面の力を活性化して?環境との相互作用で? 3) 子どもの言語の力の発達について(年齢による違い) ～4歳、～7歳、10-12歳、それ以上
2. 事例を分析して、子どもの認知面の発達と言語習得の状況の捉え方を知る。(30分) ・萌芽的リテラシー(F) ・二つの言語の関係(E) ・二言語相互依存仮説(E) ・生活言語能力と学習言語能力(E) ・認知面の支えとしての母語(E) ・一次的事と二次的事とば(F) ・言語発達と発達障害、学習障害(F)	2. 外国人児童生徒等のケースを持ち寄り、認知・学力面の発達と母語・第二言語(日本語)の力を分析する。 どちらの言語のどのような力があれば、何ができ、教科内容の理解や学習活動への参加ができるようになるか、どのような力がないと、どのようなは困難があるか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">－持ち寄るケースの例－</p> <p><ケース1> 1年前に来日した小学1年生 母語は年齢相応の力がある。日本語は簡単な会話ができる。平仮名の読み書きはできるようになったが、作文は難しい。教科学習には皆と一緒に参加しているが、読んだり書いたりして確認することができない。</p> <p><ケース2> 日本生まれ日本育ちの小学4年生 母語でも日本語でも日常のおしゃべりはできる。しかし、母語は読み書きを学んでいない。日本語は読み書きが苦手で、教科内容の理解が困難。</p> <p><ケース3> 半年前に来日した小学6年生 母語も学力も年齢相応の力がある。日本語は、ごく簡単なやりとりができる程度。日本語では教科内容の理解は困難。</p> <p><ケース4> 4年前に来日した中学2年生 母語は小学校高学年程度の読み書きができる。日本語は、まだ誤りは見られるが学年相応の文章を書き、教科内容の理解にも問題がない。</p> </div>
3. マイノリティの子どもの学習環境を考える。(15分)	3. 外国人児童生徒等の言語発達を考慮した学習環境について検討する。 ・児童生徒の言語能力が考慮された学習環境 ・言語的マイノリティの母語・母文化が価値づけられる環境

・学習権・言語権 (A)	
備考	<ul style="list-style-type: none">・項目に上げられている発達心理学・バイリンガリズム等の専門的な情報は、2で話し合われた内容に関連付けて提示し、補足説明をする。・ケースの提示方法として、子どもが実際に話しているシーンの動画や作文などがあればなお良い。